

【和歌山県・オリコンサルグループ 官民連携協定を締結 南紀白浜空港公園 オフィス整備・運営】

# 官民連携協定を締結

和歌山県・オリコンサルグループ

南紀白浜空港公園 オフィス整備・運営

南紀白浜空港を臨む展望広場（空港公園、和歌山県白浜町才野）へのビジネス拠点の整備・運営に向けた官民連携基本協定の締結式が3月30日、和歌山県庁で開かれた。写真。このほど事業提案で優先交渉権者に選ばれたオリエンタルコンサルタンツ・浅川組グループの関係者と井瀬誠白浜町長、南紀白浜空港を運営す



る南紀白浜エアポートの岡田信一郎社長が出席。事業ではICT（情報通信技術）企業などの地方オフィス誘致やワーケーションの推進、空港利用の促進を目指す拠点施設を、20年の定期借地権を設定した上で整備・運営する。2022年6月の開業を予定。

敷地は2919平方メートルで施設規模はW造平屋988平方メートル。建材には和歌山県内の木材を使用。屋根は観光資源である熊野大社（田辺市）をモチーフとしたデザインを採用する。土地の賃借料は年間140万円。コンセプトは「地域ゲートウェイとしての総合ビジ

ネス拠点」。施設には企業誘致用のレンタルオフィス7室（約440平方メートル）を配置。一般利用者とオフィス利用者の交流の場となるシェアスペース（約330平方メートル）やセミナー・会議室などを設ける。

仁坂吉伸和歌山県知事は「近年、白浜地域でのワーケーション利用が増えつつあり、空港公園を本事業の最適地として選んだ。本事業で民間アイデアをご提案頂きオフィス誘致に弾みを付けたい」と話した。優先交渉権グループの代表としてオリエンタルコンサルタンの野崎秀則社長は「和歌山県の地域活性化に貢献できることはないかと模索していたさなか、本事業の優先交渉権者に選んで頂けた。われわれのノウハウを最大限に生かせるものと確信している」と述べた。

今夏ごろに事業用地借地権設定契約を結んだ後、事業者グループはJVまたはSPC（特別目的会社）を設立し事業着手する。9月まで設計、10月～22年5月に建設工事を進める予定。